

北見工業大学 国際交流センター ニュースレター

日本語版
第 120 巻
2017. 12-2018. 1

Bosch in J
世界と日本の Bosch Group
ボッシュは日本においても、モビリティ
柱として、幅広く活躍のフィールドを

We are
Bosch



目次

- ・ 短期留学生工場見学
- ・ 留学生交流の夕べ
- ・ スキー研修
- ・ カーリング体験
- ・ インターナショナルCアワー

12月1日(金)

工場見学



今年度の工場見学は、大空町にある「ボッシュ株式会社女満別テクニカルセンター」にて実施した。当日は、28名の留学生と4名の日本人学生、3名の引率教員が参加し、約一時間、担当者の会社概要の説明を受けた他、テストコースの中をバスの中から見て回った。

説明では、同センターが行っている、ESC（エレクトロニック・スタビリティ・コントロール、横滑り防止装置）とドライバー・アシスタンス・システム（運転支援システム）の開発について、映像を交えながら聞くことができた。

実際にESCの有無による自動車走行の変化では、安全性の面でも大きな差が生じていた。また、テストコースでは、様々な路面の変化をテストできる設備や高速走行ができるコースを実際に見ることができ、高性能の車体が市場に出るまでの一面を知ることができた。

今後ボッシュは、2020年に実用化される自動運転サービスを目指し、更なる開発が行われ、事故防止、気軽にドライブができる社会を目指し、ボッシュの挑戦は今後も続くようである。

12月13(水)

留学生交流の夕べ

今年度の留学生交流の夕べには、学内外より169名の方々が来場し、盛大に開催された。今年度は、9月に4名（博士後期3、博士前期1）の留学生が既に修了し、2018年3月には15名（学部8、博士前期4、博士後期3）の留学生が卒業・修了予定になっている。

冒頭、高橋学長より、本学の留学生へのご支援に対して感謝の意が示され、その後、新疆ウイグル自治区出身のポスタンさん（博士後期課程）による学生代表挨拶が行われた。ポスタンさんは、2012年5月に来日し、これまでの約5年半、博士前期・後期課程を吉田先生の指導の下、研究に励んできたと話していた。

当初は、一人での生活に加え、日本語を全く話すことができなかったため、多くの不安を抱えて過ごしていたが、日々の努力で不安を消し去ることができ、充実した留学生活を送ることができたと話していた。

交流会では、留学生達は日々お世話になっている方々と歓談を楽しみ、会場全体が暖かい雰囲気包まれていた。また、卒業・修了予定者は、留学中の思い出をスライドにまとめ、紹介していた。どれも充実した留学を振り返るものであった。

留学生には、今後日本と母国を結ぶ架け橋として、活躍されることを期待している。



1月12日（金）

スキー研修

美しい青空の下で初心者の留学生 11 名がゲレンデスキーを満喫した。いざスキー靴を履くと、歩くことにも一苦労となり、スキーの長さや、滑りやすい地面に四苦八苦していた。レッスンでは、まずスキーの履き方や方向転換の仕方、転び方などの基礎をしっかりと学び、その後に緩い傾斜で滑降練習が行われた。午前中のレッスンが終わる頃には全員が止まれるようになり、ターンができる学生もいた。

午後のレッスンではリフトに乗り、ゲレンデの中腹からの滑りに挑戦した。リフトを降りると北見の街がきれいに見え、美しい冬景色に見とれている留学生もいた。インストラクターと共に、少しずつ滑っては止まり、滑っては止まりながら、全員が無事に滑り下ることができた。留学生アリさん（トルコ）は「スキーは思ったより難しいけれど、思ったよりとても楽しい！」と話していた。



1月21日（日）

カーリング体験



北見市青少年国際交流事業実施委員会が主催した「国際交流カーリング体験」には、北見市民やベトナムからの研修生の他、本学から留学生と教職員合せて 18 名が参加して行われた。未経験者がほとんどであったが、午後のゲームに向けて、到着後すぐに練習が開始された。

最初はブラシを持ちながら氷の上を滑る練習から始め、その後、ストーンを投げる練習を行った。各自慣れてきたところで、ストーンの前をブラシで掃くスウィーピングもペアで行い、午前中の練習が終わるころには、一通りゲームになる形を身に付けた。

午後からは、10 チームに分かれてトーナメント形式で試合を行った。どのチームも接戦で、白熱した試合の連続だった。同点で一投勝負でも決まらず、最後はジャンケンで勝敗を決めていたところもあった。

今年は、間もなく冬のオリンピックが開催される。本学の卒業生・修了生もカーリング日本代表に選ばれている。北見の地から声援を送りたいものである。

12月 7日 (木)

1月16日 (火)

「留学体験談」 インターナショナルCアワー 「餅つき」



今回のテーマは「フィンランド、ポーランド留学とドイツ語学研修の体験談」。本学の協定校へ留学をした5名と、語学研修に参加をした2名が写真や動画を使いながら発表を行った。

フィンランドのタンペレ工科大学へ留学をした彦坂さん（マテリアル工学科4年）は、おしゃれな建物のキャンパスで留学生も多く、冬休みには旅行をしたりオーロラを見たり、毎日が充実していたと話していた。

また、ポーランドのクラクフ工業大学に留学した3名の学生は、本学と同じ学科があることで勉強や単位交換がしやすく、寮も快適で、物価も安く、治安も良いという恵まれた環境だったと述べていた。

3週間のドイツ語学研修に参加をした秦さん（社会工学科4年）は、「観光旅行では体験できないことが多く、これからの人生に大きく役立っていくと思う。」と話していた。

皆が多くの収穫を得て帰国した留学・研修であった。



今年最初のCアワーは、恒例の「餅つき」であった。留学生はもちろんのこと、臼と杵での餅つきを体験してみたいという日本人も多く、国際交流センター前は80名の活気に溢れていた。

毎年実家で「餅つき」を行なっているという本学の日本人学生が、華麗な杵さばきを「よいしょ！よいしょ！」の掛け声に合わせて最初に披露してくれた。その後は留学生が挑戦し、重たい杵に悪戦苦闘しながらも美味しいお餅を完成させた。つきあがったお餅は、きなこ、粒あん、ごまだれにまぶして振る舞われ、2升のお餅はあっという間になくなった。

留学生のチームさん（フィンランド）は、「きなこ餅が美味しかった。杵で思い切り餅をついたらストレスが吹き飛んだ！」とさわやかに語っていた。

今年も本センターでは、市民の皆様と様々な活動を楽しんでいきたいと考えていると共に、2018年が素晴らしい年である様お祈り申し上げます。

今後の予定（2月）

- 2月 7日 (水) インターナショナルCアワー
- 8日 (木) 短期留学生修了式
- 10日 (土) 公開講座（国際理解講座）
- 18日 (日) ～19日 (月) 北方圏国際シンポジウム
- 24日 (土) ～3月26日 (月) シドニー英語研修
- 3月 4日 (日) ～3月24日 (土) 台湾研修

発行所：北見工業大学国際交流センター

住所：北見市公園町165

電話：(0157) 26-9370

FAX：(0157) 26-9373

E-mail：kenkyu05@desk.kitami-it.ac.jp



北見工業大学